

目次	1		
1 単位制について	2		
(1) 単位制とは			
(2) 単位とは			
(3) 履修とは			
(4) 修得とは			
(5) 卒業するには			
(6) 学年制との違い			
2 科目選択について	4		
(1) 心構え			
(2) 選び方			
(3) 必履修科目と選択必履修科目			
(4) スカラータイムについて			
(5) 注意事項			
3 教育課程	7		
4 設置科目について	8		
(1) 設置科目一覧			
(2) 設置科目の説明			
ア 国語科	イ 地理歴史科	ウ 公民科	エ 数学科
オ 理科	カ 保健体育科	キ 芸術科	ク 外国語科
ケ 家庭科	コ 情報科	サ 福祉科	
5 進路別科目選択例	35		
(1) 四年制大学（理系）	(2) 四年制大学（文系）		
(3) 看護系	(4) 看護・医療系以外の短期大学・専門学校、就職		

## 1 単位制について

### (1) 単位制とは

学年による教育課程の区分を設けずに教育を行う制度です。多くの科目が設置されているのが特徴で、みなさん一人一人の興味・関心、能力・適性、進路希望などに応じた科目を選択して学習することができます。

また、学年の区分を設けず、「学年」の代わりに入学してからの年数を「年次」と呼びます。従って、みなさんは正式には「1年生」ではなく、「1年次生」と呼ばれることとなります。

### (2) 単位とは

みなさんが高校で勉強する科目の学習量のことを「単位」といいます。ある科目について、1週間当たり1時間（50分）の授業を1年間（35回）通して学んだときの学習量を「1単位」と決めています。それぞれの科目には、「単位数」として学習しなければならない量が決められています。

例えば『現代社会』（2単位）との表記では、『現代社会』では、1週間に2時間、1年間に70時間の授業がある」ことを意味しています。

### (3) 履修とは

ある科目を学習するために、最低限必要な時間数の授業に出席することを「履修」といいます。

本校では、1年間にその授業を休んだ時間数（欠課時数）が標準総授業時数の3分の1未満であれば「履修」したことが認められます。標準総授業時数とは、[その科目の単位数×35]に相当する時間数のことです。

例えば、『数学I』（4単位）となっていれば、標準総授業時数は4単位×35＝140時間なので、欠課時数が47（140÷3≒46.7）時間未満ならば、「履修」が認められます。

### (4) 修得とは

ある科目の授業に十分に出席して、学習内容を身につけることを「修得」といいます。

本校では、その授業の欠課時数が標準総授業時数の5分の1以下で、5段階評定の2以上（10段階評定の3以上）のとき、その科目の単位の「修得」が認められます。

ただし、欠課時数が5分の1を超え、3分の1未満のとき、特に事情があり、その事情について、校長がやむを得ないと判断した場合のみ考慮されることがあります。

### (5) 卒業するには

本校普通科では、以下の条件を満たせば卒業が認定されます。

- ア 「教科・科目」及び「総合的な探究の時間」の修得単位数の合計が84単位以上であること。
- イ 「学校設定科目」の修得単位数の合計が20単位以内であること。
- ウ 「必履修科目」をすべて履修していること。
- エ 「総合的な探究の時間」を履修していること。
- オ 「特別活動」を履修し、その成果が満足するものと認められること。

3年次までに、卒業条件を満たすことができなければ、卒業の認定がされず、4年次生になって学習することとなります。

(6) 学年制との違い

学年制の高校では、学年ごとに単位の修得を判定し、所定の単位を修得するとその学年を「修了」し、次の学年に「進級」することができます。こうして、1学年、2学年、3学年と進級し、3学年を修了すれば、卒業が認定されます。しかし、その学年で所定の単位を修得できない生徒は、次の学年に進級することができず、もう一度、同じ学年をやり直すことになります。つまり、修得できた科目もできなかった科目も関係なく、その学年の科目をすべて学習し直すことになります。

これを「原級留置」と呼んでいます。

本校は単位制なので、学年の「修了」や「進級」、「原級留置」はありません。何らかの理由で修得できない科目が一部あったとしても、その年次のすべての科目をやり直す必要はありません。

修得できた科目の単位は、すべて卒業に必要な単位数として活かすことができます。

また、学年制では設置されている科目の数が少なく、選択できる科目も限定されています。

しかし、単位制の本校では設置されている科目が多く、みなさんの興味・関心、能力・適性、進路希望などに応じて、多様な科目選択が可能です。

## 2 科目選択について

### (1) 心構え

ここまでの説明のとおり、「科目選択の幅が広い」ということが単位制の最も大きな特徴です。しかし、言い方を変えれば、「多くの科目の中から自分で選ばなければならない」ということでもあります。場合によっては、科目が多すぎてどれを選んでいいか迷ってしまうこともあるでしょう。だからと言って、いい加減に選んでしまうと、2年次、3年次になってから後悔することにもなりかねません。

では、どうすれば失敗せずに科目選択をすることができるのでしょうか。そのためには、次のア～オに注意して科目選択に取り組んでください。

#### ア 自分で積極的に行動する

誰かが科目を決めてくれる訳ではありません。自分自身のことです。自分以外に決める人はいないのです。

#### イ よく調べる

科目を決めるために必要な情報をたくさん集めましょう。

#### ウ よく考える

集めた情報をもとに、時間をかけてじっくり考えてみましょう。

#### エ 相談する

一人で考えていると、どの科目を選んでいいのかわからなくなってしまうことがあります。そんなときは、いろいろな人と相談してみましょう。特に、人生経験の豊富な人（保護者、担任、教科担当など）と相談してみましょう。みなさんとは違った視点でいいアドバイスをもらえるかもしれません。ただし、最終的に決断するのはみなさん自身です。

#### オ 責任をもつ

十分に考えて、最終的に自分で決めたからには、責任を持ちましょう。科目登録を締め切った後に、「ああ、やっぱり別な科目のほうが良かったなあ・・・」ということのないようにしましょう。また、2年次や3年次になって、「この科目は進路に関係なくなったから、どうでもいいや・・・」と授業をいい加減に受けることをしてはいけません。自分で決めた科目なのですから、最後まで全力で取り組みましょう。

### (2) 選び方

基本的には、「自分の長所や個性を伸ばしていく」ことを考えて、科目を選びましょう。

自分の苦手な科目を避けるという消極的な発想ではいけません。「あれも苦手、これも苦手、だからこれしか選ぶものがない」というように選択幅が狭くなってしまいます。科目選択の幅が狭いということは、みなさんのこれからの人生の選択幅が狭いということにもなります。自分の可能性を広げるためにも、苦手科目をなくし、「あれも得意、これも得意、だけどこれが一番自分に合っているから、この科目を選ぶ」という選択ができるように、日々の学習に取り組んでいきましょう。

では、次のような点に着目して、選ぶべき科目を考えてください。

- ア 進路にかかわって必要な科目
- イ 教科のバランス
- ウ 能力・適性を伸ばす科目
- エ 好きな科目、得意な科目
- オ 興味・関心のある科目
- カ 幅広い教養を身につけられる科目

### (3) 必修科目と選択必修科目

科目の中には、全員が必ず履修しなければならない「必修科目」と、教科ごとに定められた条件を満たすように選択して履修しなければならない「選択必修科目」があります。これらの条件が1つでも欠けると卒業が認定されないので、充分注意してください。

また、一般的には、「選択必修科目」であっても、本校で全員が履修しなければならないとしている科目は「必修科目」と示しています。例えば、家庭科では、『家庭基礎』、『家庭総合』、『生活デザイン』の中から1科目以上履修しなければならないと学習指導要領で定められていますが、本校の教育課程（普通科）では1年次に全員が『家庭基礎』を履修することになっているので「必修科目」と表示しています。

### (4) スカラータイトムについて

スカラータイトムとは、「自学自習の時間」のことです。選択枠の選択科目の中から、あえてどの科目も選択せず、その時間を「自学自習」のために利用します。したがって、スカラータイトムを選択しても単位の認定はありません。

この時間の利用方法は、各自の自主的な計画に任せられます。例えば、音楽室、美術室等が授業で使用されていなければ、そこでピアノの練習をしたり、デッサンの練習をすることができます。また、専用の自習室で資格取得のための学習をしたり、就職や進学のための勉強をすることもできます。

ただし、スカラータイトムを選択できるのは、2年次までのすべての単位を修得した人で、利用目的が明確な人に限られます。事前に自分で学習計画を立てて申請し、許可された場合のみ選択できます。具体的な申請方法については、後日、教務部より説明があります。

### (5) 注意事項

ア 1年次生は、2年次の科目のみ登録します。ただし、登録用紙には参考として3年次の科目も記入します。

イ 例外を除き、同じ科目名の科目は1回しか選択できません。ただし、科目名とは[文上]、[理上]、[ $\alpha$ ]、[ $\beta$ ] など、括弧の部分まで含めたものとします。

<例外> 『古典 B』、『体育』、『保健』、『英語表現 II』

『地理 B[上下]』、『物理[上下]』、『生物[上下]』は2年次、3年次セットで4単位として扱う。

ウ 『古典 B』、『英語表現 II』は、同じ年次では1回しか選択できませんが、異なる年次では選択することができます。

エ 次の科目は、履修の順番が決まっています。

教 科	1 年次	2 年次	3 年次	
数 学	『数学Ⅰ』 → 『数学Ⅱ』 → 『数学Ⅲ』			
理 科	『物理基礎』 → 『物理〔上〕』 → 『物理〔下〕』			* 1 年次『物理基礎』 3 年次『物理』も 可
	『化学基礎』 → 『化学』			
	『生物基礎』 → 『生物〔上〕』 → 『生物〔下〕』			* 1 年次『生物基礎』 3 年次『生物』も 可
	『地学基礎』 → 『地学』			
芸 術	『音楽Ⅰ』 → 『音楽Ⅱ』 → 『音楽Ⅲ』			
	『美術Ⅰ』 → 『美術Ⅱ』 → 『美術Ⅲ』			
	『書道Ⅰ』 → 『書道Ⅱ』 → 『書道Ⅲ』			* 『コミュニケーション英語』は
外国語	『C 英語Ⅰ』 → 『C 英語Ⅱ』 → 『C 英語Ⅲ』			『C 英語』と略して表記

(ア) 『～Ⅱ』は、『～Ⅰ』を履修済みでないと選択できません。

(イ) 『～Ⅲ』は、『～Ⅱ』を履修済みでないと選択できません。

オ 併せて選択しなければならない科目が決まっています。

(ア) 2 年次『現代文 B [理上]』(2 単位)と 2 年次『古典 B』(2 単位)

(イ) 2 年次『現代文 B [文上]』(3 単位)と 2 年次『古典 B』(3 単位)

(ウ) 2 年次『地理 B[上]』(2 単位)と 3 年次『地理 B[下]』(2 単位)

(エ) 2 年次『物理[上]』(2 単位)と 3 年次『物理[下]』(2 単位)

(オ) 2 年次『生物[上]』(2 単位)と 3 年次『生物[下]』(2 単位)

カ 学校設定科目は、3 年間で 20 単位までしか選択できません。(P 8, P 9 参照)

キ スカラータイムについては、次のように決まっています。(P 5 参照)

(ア) 合計 4 単位までしか選択できません。

(イ) 単位認定は行いません。

(ウ) 2 年次までの単位をすべて修得していなければ選択できません。

(エ) 利用目的・計画を申請し、許可された場合のみ選択できます。

申請は本登録終了後、許可は 2 年次の単位認定後の予定です。

(オ) 許可されない場合があるので、予備科目を登録します。

ク 3 年次の科目は、設置場所の変更及び新たな科目の追加の可能性があります。

ケ 本登録後は、変更を認めません。

3 教育課程

単位数	1年次	選択ゾーン	2年次	選択ゾーン	3年次			
1	国語総合		数学Ⅱ		体 育			
2								
3								
4								
5	現代社会		体 育		コミュニケーション英語Ⅲ			
6								
7						保 健		
8	数学Ⅰ		コミュニケーション英語Ⅱ	A	現代文 B [文下]	現代文 B [理下]		
9								
10								
11								
12	数学 A	①	現代文 B [文上]	現代文 B [理上]	B1	古典 B, 数学特講, 家庭研究 音楽Ⅲ, 美術Ⅲ, 書道Ⅲ		
13							古典 B	
14	物理基礎	①	古典 B	地理 B[上]	B2	古典 B, 国語表現 数学特講Ⅰ		
15							世界史 A	B3
16	生物基礎	①	古典 B	地理 B[上]	B3	英語表現Ⅱ, 英語特講 実用文書処理		
17							世界史 A	
18	体 育	②	世界史 B 日本史 B	C1	古典 B, 古典特講, 世界史 A, 日本史 A, 地理 B[下] 政治・経済, 現社特講, 倫理, 数学特講Ⅰ, 数特記述	物理[下], 生物[下], アートミックス, 英語特講 社福基礎, 発達と保育		
19							化学基礎+化学[上]	
20	保 健	②	化学基礎+化学[上]	C2	物理[下], 生物[下], アートミックス, 英語特講 社福基礎, 発達と保育			
21	芸術Ⅰ	③	数学 B 英語表現Ⅱ	C3	国語表現, 古典特講, 表現探究, 数学特講Ⅰ 化学[下], 生化基特, 生地基特, 地化基特	スポーツⅡ[β], 音楽総合, 描写, 実用書道 英語表現Ⅱ, 実践英語, 英語特講, 生活と福祉		
22								
23	コミュニケーション英語Ⅰ	③	数学 B 英語表現Ⅱ	C4	国語表現, 古典特講, 表現探究, 数学特講Ⅰ 化学[下], 生化基特, 生地基特, 地化基特	スポーツⅡ[β], 音楽総合, 描写, 実用書道 英語表現Ⅱ, 実践英語, 英語特講, 生活と福祉		
24								
25								
26								
27	英語表現Ⅰ	④	世界史 A, 地理 A 日本史 A, 数学 B 化学基礎, 地学基礎 物理[上], 生物[上] スポーツⅡ[α], 音楽Ⅱ 美術Ⅱ, 書道Ⅱ 英語表現Ⅱ, 社福基礎 上記より3科目選択	C5	古典特講, 世界史 A, 日本史 A, 地理 A, 現社特講 数学特講Ⅰ, 科学実験, 英語特講, 社福基礎, アイ概論	世界史特講 日本史特講 物理, 化学 生物, 地学	D1	化学特講, 地学特講 スポーツ福祉, 情報の科学
28								
29	家庭基礎	④	世界史 A, 地理 A 日本史 A, 数学 B 化学基礎, 地学基礎 物理[上], 生物[上] スポーツⅡ[α], 音楽Ⅱ 美術Ⅱ, 書道Ⅱ 英語表現Ⅱ, 社福基礎 上記より3科目選択	D	古典特講, 世界史 A, 日本史 A, 地理 A, 現社特講 数学特講Ⅰ, 科学実験, 英語特講, 社福基礎, アイ概論	世界史特講 日本史特講 物理, 化学 生物, 地学	D1	化学特講, 地学特講 スポーツ福祉, 情報の科学
30								
31	社会と情報		総合的な探究の 時間		総合的な探究の時間			
32								
33	ホームルーム		ホームルーム		ホームルーム			

\* 科目の略称 (科目の正式名称)

現社特講 (現代社会特講)、数特記述 (数学特講記述)、生化基特 (生物化学基礎特講)

生地基特 (生物地学基礎特講)、地化基特 (地学化学基礎特講)、スポーツ福祉 (スポーツ福祉実践)

発達と保育 (子どもの発達と保育)、社福基礎 (社会福祉基礎)

4 設置科目について

(1) 設置科目一覧

教科	年次	科目名 (単位数)	選択ゾーン	備考	
国語	1	国語総合 (5)		必履修科目	
	2	現代文 B [文上] (3)	①	2年次『古典 B』(3) とセット	
		現代文 B [理上] (2)	①	2年次『古典 B』(2) とセット	
		古典 B (3)	①	2年次『現代文 B [文上]』とセット	
		古典 B (2)	①	2年次『現代文 B [理上]』とセット	
	3	現代文 B [文下] (3)	A		
		現代文 B [理下] (3)	A		
		古典 B (3)	B1		
		古典 B (2)	B2,B3,C1,C2		
		国語表現 (2)	B2,B3,C3,C4		
古典特講 (2)		C1,C2,C3,C4,C5	学校設定科目		
	表現探究 (2)	C3,C4	学校設定科目		
地理歴史	2	世界史 A (2)	①,④	< 選択必履修科目 > <b>重要</b> 『世界史 A』、『世界史 B』(○印) から 1 科目以上、かつ『日本史 A』、『日本史 B』、『地理 A』、『地理 B』(△印) から 1 科目以上を履修しなければならない。 ※ 2年次に『地理 B [上]』を履修した者は、必ず 3年次に『地理 B [下]』を履修しなければならない。	
		世界史 B (4)	②		
		日本史 A (2)	④		
		日本史 B (4)	②		
		地理 A (2)	④		
		地理 B [上] ※ (2)	①		
	3	世界史 A (2)	C1,C2,C5		
		日本史 A (2)	C1,C2,C5		
		地理 A (2)	C5		
		地理 B [下] ※ (2)	C1,C2		
	世界史特講 (4)	D	学校設定科目		
	日本史特講 (4)	D	学校設定科目		
公民	1	現代社会 (2)		必履修科目	
	3	倫理 (2)	C1,C2		
		政治・経済 (2)	C1,C2		
		現代社会特講 (2)	C1,C2,C5	学校設定科目	
数学	1	数学 I (4)		必履修科目	
		数学 A (2)			
	2	数学 II (4)			
		数学 B (3)	③		
		数学 B (2)	④		
	3	数学 III (7)	B		
		数学特講 (3)	B1	学校設定科目	
		数学特講 I (2)	B2,B3,C1,C2,C3,C4,C5	学校設定科目	
数学特講 B (4)		B2,B3	学校設定科目		
	数学特講記述 (2)	C1,C2	学校設定科目		
理科	1	物理基礎 (2)		必履修科目	
		生物基礎 (2)		必履修科目	
	2	化学基礎 (2)	②,④	< 選択必履修科目 > <b>重要</b> 『化学基礎』、『地学基礎』(○印) のどちらか 1 科目を履修しなければならない。	
		地学基礎 (2)	④		
		物理 [上] (2)	④		
		化学 [上] (2)	②		
		生物 [上] (2)	④		
	3	物理 [下] (2)	C1,C2		
		物理 (4)	D		
		化学 [下] (2)	C3,C4		
		化学 (4)	D		
		生物 [下] (2)	C1,C2		
生物 (4)		D			
	地学 (4)	D			



教科	年次	科目名 (単位数)	選択ゾーン	備考
理科	3	物理特講 (2)	D2	学校設定科目
		化学特講 (2)	D1	学校設定科目
		生物特講 (2)	D2	学校設定科目
		地学特講 (2)	D1	学校設定科目
		生物化学基礎特講 (2)	C3,C4	学校設定科目
		生物地学基礎特講 (2)	C3,C4	学校設定科目
		地学化学基礎特講 (2)	C3,C4	学校設定科目
		科学実験 (2)	C5	学校設定科目
地球環境 (2)	D2	学校設定科目		
保健体育	1	体育 (2)		必履修科目
		保健 (1)		必履修科目
	2	体育 (2)		必履修科目
		保健 (1)		必履修科目
	3	スポーツⅡ [α] (2)	④	
		体育 (3)		必履修科目
スポーツⅡ [β] (2)		C3,C4		
スポーツ福祉実践 (2)	D1	学校設定科目		
芸術	1	音楽Ⅰ (2)		<選択必履修科目> 『音楽Ⅰ』、『美術Ⅰ』、『書道Ⅰ』から1科目を履修しなければならない。
		美術Ⅰ (2)		
		書道Ⅰ (2)		
	2	音楽Ⅱ (2)	④	
		美術Ⅱ (2)	④	
		書道Ⅱ (2)	④	
	3	音楽Ⅲ (3)	B1	
		美術Ⅲ (3)	B1	
		書道Ⅲ (3)	B1	
		工芸Ⅰ (2)	D2	
		アートミックス (2)	C1,C2	学校設定科目
		実用書道 (2)	C3,C4	学校設定科目
		音楽総合 (2)	C3,C4	学校設定科目
描写 (2)	C3,C4	学校設定科目		
外国語	1	コミュニケーション英語Ⅰ (4)		必履修科目
		英語表現Ⅰ (2)		
	2	コミュニケーション英語Ⅱ (4)		
		英語表現Ⅱ (3)	③	
		英語表現Ⅱ (2)	④	
	3	コミュニケーション英語Ⅲ (4)		
英語表現Ⅱ (2)		B2,B3,C3,C4		
英語特講 (2)		B2,B3,C1C2,C3,C4,C5	学校設定科目	
実践英語 (2)	C3,C4	学校設定科目		
家庭	1	家庭基礎 (2)		必履修科目
	3	子どもの発達と保育 (2)	C1,C2	
		生活と福祉 (2)	C3,C4	
家庭研究 (3)	B1	学校設定科目		
情報	1	社会と情報 (2)		必履修科目
	3	情報の科学 (2)	D1	
		実用文書処理 (2)	B2,B3	学校設定科目
メディア概論 (2)	C5	学校設定科目		
福祉	2	社会福祉基礎 (2)	④	
	3	社会福祉基礎 (2)	C1,C2,C5	

## (2) 設置科目の説明

## ア 国語科

2年次	現代文B [文上]	3単位	普通	選択ゾーン ①
履修条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>『国語総合』が履修済みであること。</li> <li>2年次の『古典B (3)』と併せて選択すること。</li> </ul>			
内 容	<ul style="list-style-type: none"> <li>『国語総合』で学習した内容を深化・発展させ、より高度で複雑な明治以降の文章をとおして、論理的なものの見方・感じ方・考え方を深め、さらにそれらを発表することによって表現力を身につける。</li> <li>定期考査、小テスト、課題テスト、提出物などをもとに評価する。</li> </ul>			
教科からのアドバイス	3年次に『現代文B [文下]』を選択することを想定して授業を進める。			

2年次	現代文B [理上]	2単位	普通	選択ゾーン ①
履修条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>『国語総合』が履修済みであること。</li> <li>2年次に『古典B (2)』を併せて選択すること。</li> </ul>			
内 容	『現代文B [文上]』に同じ			
教科からのアドバイス	3年次に『現代文B [理下]』を選択することを想定して授業を進める。			

2年次	古典B	3単位	普通	選択ゾーン ①
履修条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>『国語総合』が履修済みであること。</li> <li>2年次に『現代文B [文上]』を併せて選択すること。</li> </ul>			
内 容	<ul style="list-style-type: none"> <li>『国語総合』で学習した内容を深化・発展させ、古文・漢文の作品をとおして、語彙力・文法力・読解力・鑑賞力を養う。</li> <li>定期考査、小テスト、課題テスト、提出物などをもとに評価する。</li> </ul>			
教科からのアドバイス	特になし			

2年次	古典B	2単位	普通	選択ゾーン ①
履修条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>『国語総合』が履修済みであること。</li> <li>2年次に『現代文B [理上]』を併せて選択すること。</li> </ul>			
内 容	<ul style="list-style-type: none"> <li>『国語総合』で学習した内容を深化・発展させ、古文・漢文の作品をとおして、語彙力・文法力・読解力・鑑賞力を養う。</li> <li>定期考査、小テスト、課題テスト、提出物などをもとに評価する。</li> </ul>			
教科からのアドバイス	特になし			

3年次	現代文B [文下]	3単位	普通	選択ゾーン A
履修条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>『国語総合』が履修済みであること。</li> <li>2年次に『現代文B [文上]』が履修済みであること。</li> </ul>			
内 容	<ul style="list-style-type: none"> <li>2年次の『現代文B [文上]』に引き続き、より高度で複雑な明治以降の文章をとおして、論理的なものの見方・感じ方・考え方を深め、さらにそれらを発表することによって表現力を身につける。</li> <li>定期考査、小テスト、課題テスト、提出物などをもとに評価する。</li> </ul>			
教科からのアドバイス	2年次に履修する『現代文B [文上]』に引き続き、学習を行う。			

3年次	現代文B [理下]	3単位	普通	選択ゾーン A
履修条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>『国語総合』が履修済みであること。</li> <li>2年次に『現代文B [理上]』が履修済みであること。</li> </ul>			
内 容	『現代文B [文下]』に同じ。			
教科からのアドバイス	2年次に履修する『現代文B [理上]』に引き続き、学習を行う。			

3年次	古典B	3単位	普通	選択ゾーン B1
履修条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>『国語総合』及び2年次の『古典B』が履修済みであること。</li> <li>3年次の『古典B (2)』と併せて選択できない。</li> </ul>			
内 容	<ul style="list-style-type: none"> <li>2年次で学習した内容を深化・発展させ、古文・漢文の作品をとおして、より高度な語彙力・文法力・読解力・鑑賞力を養う。</li> <li>定期考査、小テスト、課題テスト、提出物などをもとに評価する。</li> </ul>			
教科からのアドバイス	<ul style="list-style-type: none"> <li>入試科目に「古典」がある人は、原則として選択すること。</li> <li>国公立大学（文系）私立大学（文系）希望者は、選択すること。</li> </ul>			

3年次	古典B	2単位	普通 共修	選択ゾーン B2, B3, C1, C2
履修条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>『国語総合』及び2年次の『古典B』が履修済みであること。</li> <li>3年次の『古典B (3)』と併せて選択できない。</li> </ul>			
内 容	3年次の『古典B (3)』と同じ			
教科からのアドバイス	入試科目に「古典」があり、3年次の『古典B (3)』を選択できない人は、選択すること。			

3年次	国語表現	2単位	普通 共修	選択ゾーン B2,B3,C3,C4
履修条件	特になし			
内 容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「読む」、「書く」、「聞く」、「話す」の4分野において、国語による効果的な表現やコミュニケーションについて学習する。「読む」、「聞く」、「話す」分野の実践的能力とともに、「書く」分野の文章表現能力を育成する。</li> <li>・毎時間課す課題をもとに評価する。</li> </ul>			
教科からの アドバイス	総合的な国語力を養う。			

3年次	古典特講	2単位	普通 共修	選択ゾーン C1,C2,C3,C4,C5
履修条件	特になし			
内 容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・古文を中心に、実践的に大学入試レベルの問題演習をする。あらかじめ解答してきた問題の解説をしますので、予習して授業に臨まなければならない。</li> <li>・定期考査、小テスト、課題テスト、提出物などをもとに評価する。</li> <li>・新たな問題集を使用する。</li> </ul>			
教科からの アドバイス	入試科目に「古典」がある人は、原則として選択すること。			

3年次	表現探究	2単位	普通 共修	選択ゾーン C3,C4
履修条件	特になし			
内 容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学入試における論述試験に対応できる力の育成を目標とする。</li> <li>・大学入試で出題されそうな文章や時事問題、また過去問を読み、それについて文章の主意を読み取り、一方で自分の考えを文章でまとめる練習をする。</li> <li>・毎時間課す課題をもとに評価する。</li> </ul>			
教科からの アドバイス	小論文・論述問題に特化した国語力を養う。			

## イ 地理歴史科

### 【重要】点検項目

- 1 『世界史 A』、『世界史 B』 から 1 科目以上を履修すること。
- 2 『日本史 A』、『日本史 B』、『地理 A』、『地理 B』 の 4 科目の中から、1 科目以上を履修すること。

2, 3 年次	世界史 A	2 単位	普通 共修	選択ゾーン ①, ④, C1, C2, C5
履修条件	特になし。ただし、卒業のためには、少なくとも『世界史 A』又は『世界史 B』のいずれかを履修しなければならないので、注意すること。			
内 容	<p>原始・古代・中世にも触れながら世界の諸文明の歴史を学習する。近現代史に重点をおき、講義主体の授業を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市民革命とその後の世界</li> <li>・19 世紀の世界</li> <li>・現代の世界</li> </ul> <p>定期考査、提出物等や授業に対する取組をもとに評価する。</p>			
教科からの アドバイス	例えば理系を希望する人など、少ない単位数で簡潔に世界史を学習したい人に向けている。受験科目として「世界史 A」では関西地区私学の受験はできない。また、大学入学共通テスト「世界史 A」はかなり高度な内容であるため受験には不向きである。			

2 年次	世界史 B	4 単位	普通	選択ゾーン ②
履修条件	特になし。ただし、卒業のためには、少なくとも『世界史 A』又は『世界史 B』のいずれかを履修しなければならないので、注意すること。			
内 容	<p>世界の歴史の大きな流れを、時代や地域（文化圏）ごとに学び、重要なことがらを関連づけながら理解する科目である。主な学習項目は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人類の出現、文明のおこり（オリエント文明、地中海文明、アジアの古代文明）</li> <li>・東アジア世界の形成</li> <li>・イスラム世界の形成</li> <li>・ヨーロッパ世界の形成</li> <li>・近代ヨーロッパの形成・成長・発展</li> <li>・欧米列強によるアジア・アフリカ諸国の侵略</li> </ul> <p>定期考査、提出物等や授業に対する取組をもとに評価する。</p>			
教科からの アドバイス	<p>「世界史 B」を受験科目にする人や、世界史を詳しく学習したい人向けの科目である。</p> <p>「世界史 B」を受験科目にする人は、2 年次に『世界史 B』を選択し、3 年次に『世界史特講』を選択すること。</p>			

2, 3年次	日本史 A	2 単位	普通 ----- 共修	選択ゾーン ④, C1, C2, C5
履修条件	特になし。ただし、卒業のためには、『日本史 A』、『日本史 B』、『地理 A』、『地理 B』の中から、少なくとも 1 科目は履修しなければならないので、注意すること。			
内 容	<p>世界史的視野に立って、日本の歴史や文化の基本的なことがらを系統的にとらえ、近代日本のあゆみを理解する科目である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日本史的な基本内容を理解した上で、近世から近代日本の政治・社会の特徴、日清日露戦争の日本の対外政策まで</li> <li>・ 第一次世界大戦・第二次世界大戦・敗戦による旧体制の崩壊と社会の混乱から新しい国家建設と国民の努力についてまで</li> </ul> <p>定期考査、提出物等や授業に対する取組をもとに評価する。</p>			
教科からのアドバイス	「日本史 A」は、近現代史中心であるが、単位数が少ないので、理系志望で地理歴史科目に多くの単位をあてられない人向けの科目である。受験科目として「日本史」が必要な人は、「日本史 A」で受験できない大学もあるので、注意すること。			

2 年次	日本史 B	4 単位	普通 -----	選択ゾーン ②
履修条件	特になし。ただし、卒業のためには、『日本史 A』、『日本史 B』、『地理 A』、『地理 B』の中から、少なくとも 1 科目は履修しなければならないので、注意すること。			
内 容	<p>日本の歴史を世界史的視野に立って、政治・外交・経済・文化など総合的に学ぶ科目である。歴史学習の意義を踏まえ、日本史の全体像が理解できるように各時代の特徴を学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 原始古代から中世前期にいたるまで</li> <li>・ 旧石器・縄文・弥生・古墳（～白鳳）・奈良・平安・鎌倉時代まで</li> <li>・ 中世後期から近世に至るまで</li> <li>・ 南北朝・室町・安土桃山（戦国）・江戸時代まで</li> </ul> <p>定期考査、提出物等や授業に対する取組をもとに評価する。</p>			
教科からのアドバイス	「日本史 B」を受験科目にする人や、日本史を詳しく学習したい人向けの科目である。「日本史 B」を受験科目にする人は、2 年次に『日本史 B』を選択し、3 年次に『日本史特講』を選択すること。			

2, 3年次	地理 A	2 単位	普通 -----	選択ゾーン ④, C5
履修条件	特になし。ただし、卒業のためには、『日本史 A』、『日本史 B』、『地理 A』、『地理 B』の中から、少なくとも 1 科目は履修しなければならないので、注意すること。			
内 容	「地理 A」は地理の概略を学ぶ教養的な科目である。現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培う。地理の学習には系統地理的な学習と地誌的な学習があるが、「地理 A」は地誌的な学習に重きをおいた科目である。			
教科からのアドバイス	大学入学共通テストで地歴の A 科目は設置されているが、一般的な受験科目ではない。したがって、受験参考書などが発売されていない。また、地歴の A 科目は、各大学が受験の際に指定する科目に含まれていない場合もあるので、注意すること。			

2, 3年次	地理 B[上下]	2 + 2 単位	普通	選択ゾーン ①, C1, C2
履修条件	特になし。ただし、卒業のためには、『日本史 A』、『日本史 B』、『地理 A』、『地理 B』の中から、少なくとも 1 科目は履修しなければならないので、注意すること。			
内 容	「地理 B」は地理を詳しく学ぶ科目である。現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培う。地理の学習には系統地理的な学習と地誌的な学習があるが、「地理 B」は系統地理的な学習と地誌的な学習をともに行う科目である。			
教科からの アドバイス	「地理 B」は大学入学共通テストでは代表的な受験科目のひとつであるが、私立大学文系の入試においては、選択科目として設置されていない場合が多いので、注意すること。2年次に『地理 B[上]』（2 単位）を選択した者は、3年次に『地理 B[下]』（2 単位）を必ず履修する。			

3 年次	世界史特講	4 単位	普通	選択ゾーン D
履修条件	特になし			
内 容	世界の歴史について、18 世紀までの歴史については一応の理解は既に得られているものとして、概ね 19～21 世紀の歴史について学ぶ。また、より発展的な学習にも取り組む。例えば、今日の国際紛争や民族問題をはじめ、政治史・外交史・文化史・社会史などの部門から適当なものを取り上げて学習する。 定期考査、提出物等や授業に対する取組をもとに評価する。			
教科からの アドバイス	「世界史」についての発展的な（高度な）教養科目である。大学入試へ対応する力を身につけることも目的の一つにしている。大学受験で「世界史 B」を受験科目にする人は、選択すること。 2年次に『世界史 B』を履修していることが望ましい。 履修していなくても選択は可能であるが、その場合は、十分な自学自習が必要となる。			

3 年次	日本史特講	4 単位	普通	選択ゾーン D
履修条件	特になし			
内 容	江戸時代までの歴史については一応の理解がすでに得られているものとして、明治・大正・昭和・平成の歴史を学ぶ。また、より発展的な考察力を養う学習（難易度の高い学習）にも取り組むものとする。 例えば、 ・部門史 政治史・外交史・経済史（貨幣金融史・土地経済史・荘園史など）文化史（仏教史・学問思想史・美術史など）・社会史（地域史・女性史など） ・史料の講読 定期考査、提出物等や授業に対する取組をもとに評価する。			
教科からの アドバイス	大学入試へ対応できる力を身につけるので、「日本史」を受験科目にする人は、この科目を選択すること。 2年次に『日本史 B』を履修していることが望ましい。 履修していなくても選択は可能であるが、その場合は、十分な自学自習が必要となる。			

## ウ 公民科

3年次	倫理	2単位	普通 ----- 共修	選択ゾーン C1, C2
履修条件	特になし			
内 容	<p>私たち自身を見つめ、他者との関わりを考察する。また先哲の思想として、古代ギリシア思想、「ユダヤ教」、「キリスト教」、「イスラム教」、「仏教」、「儒教」のアウトラインを学習する。また、デカルト以来の物心二元論の系譜からベーコンの経験論、カントの批判哲学などを学習する。さらに、現代社会の環境倫理学、情報倫理学、生命哲学なども考察していく。</p>			
教科からの アドバイス	大学入学共通テストにも対応する。			

3年次	政治・経済	2単位	普通 ----- 共修	選択ゾーン C1, C2
履修条件	特になし			
内 容	<p>現代における政治・経済・国際関係などについて客観的に理解し、それらに関する諸課題について考察する。</p> <p>主な学習内容は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の政治の仕組みと、今日的な課題について</li> <li>・国際社会において日本が果たすべき役割について</li> <li>・経済の仕組み、グローバル化の内容、日本経済の展望について</li> </ul>			
教科からの アドバイス	特に、経済・経営・商学部への進学希望者には、必修の内容構成となっている。新聞等を読んで、社会の動きに関心を持つことが必要である。			

3年次	現代社会特講	2単位	普通 ----- 共修	選択ゾーン C1, C2, C5
履修条件	特になし			
内 容	<p>1年次に学習した『現代社会』を継続して、主に経済分野と国際社会の分野を扱う。具体的には、「経済の仕組み」、「日本の経済」、「国際社会と人類の課題」の各単元を学習する。その後、『現代社会』の学習内容の総復習と問題演習を実施する。</p>			
教科からの アドバイス	大学受験で「現代社会」が必要な場合は、選択することが望ましい。ただし、大学によっては受験科目として設置していない場合も多いので、注意すること。			



## エ 数学科

2年次	数学B	3単位	普通	選択ゾーン ③
履修条件	『数学I』、『数学A』を履修済みであること。			
内 容	「数列」、「ベクトル」及び総合演習を行う。 定期考査、課題テスト、提出物等をもとに評価する。			
教科からの アドバイス	理系大学進学希望者は、選択すること。			

2年次	数学B	2単位	普通	選択ゾーン ④
履修条件	『数学I』、『数学A』を履修済みであること。			
内 容	「数列」、「ベクトル」及び総合演習を行う。 定期考査、課題テスト、提出物等をもとに評価する。			
教科からの アドバイス	文系大学進学希望者で、数学を受験科目とする人は、選択すること。			

3年次	数学Ⅲ	7単位	普通	選択ゾーン B
履修条件	『数学I』、『数学A』、『数学II』、『数学B』を履修済みであること。			
内 容	「平面上の曲線」、「複素数平面」、「関数と極限」、「微分法」、「積分法」及び総合演習を行う。 定期考査、単元テスト、提出物等をもとに評価する。			
教科からの アドバイス	理系大学進学希望者は、選択すること。			

3年次	数学特講	3単位	普通	選択ゾーン B1
履修条件	『数学I』、『数学A』を履修済みであること。			
内 容	『数学I』、『数学A』の内容を中心に、基本事項の確認をしながら基礎力の定着を目指す。さらに、問題演習を通して応用力を養う。 定期考査、小テスト、提出物等をもとに評価する。			
教科からの アドバイス	医療・看護系専門学校等への進学希望者で、数学を受験科目にする人は、選択すること。			

3年次	数学特講 I	2単位	普通 共修	選択ゾーン B2,B3,C1,C2 C3,C4,C5
履修条件	『数学Ⅰ』、『数学A』を履修済みであること。			
内 容	『数学Ⅰ』、『数学A』の内容を深め、応用力を養う。また、大学入学共通テスト、文系の私立大学入試を目指し、思考力や計算力をつけながら、総合的な問題解決能力を養う。 定期考査、小テスト、提出物等をもとに評価する。			
教科からの アドバイス	大学進学希望者で、「数学Ⅰ」、「数学A」を受験科目にする人は、選択すること。			

3年次	数学特講 B	4単位	普通	選択ゾーン B2 , B3
履修条件	『数学Ⅰ』、『数学Ⅱ』、『数学A』、『数学B』を履修済みであること。			
内 容	『数学Ⅰ』、『数学Ⅱ』、『数学A』、『数学B』の内容を深め、応用力を養う。また、思考力や計算力を身につけながら、総合的な問題解決能力を養う。 定期考査、小テスト、提出物等をもとに評価する。			
教科からの アドバイス	大学入学共通テストや私立大学入試において、「数学Ⅰ」、「数学A」、「数学Ⅱ」、「数学B」を受験科目にする人は、選択すること。			

3年次	数学特講記述	2単位	普通 共修	選択ゾーン C1, C2
履修条件	『数学Ⅰ』、『数学A』、『数学Ⅱ』、『数学B』を履修済みであること。また、同時に『数学Ⅲ』を履修すること。			
内 容	応用力を養うことを主眼とし、記述式入試に対応できるように、思考力や計算力をつけながら、総合的な問題解決能力を養う。			
教科からの アドバイス	難関国公立大学の二次試験で、高度な数学を必要とする人は、選択すること。 難易度の高い数学の問題を扱う。			

オ 理科

2年次	化学基礎+化学[上]	2+2単位	普通	選択ゾーン ②
履修条件	特になし			
内 容	『化学基礎』は「物質の構成」、「物質の構成粒子」、「粒子の結合」、「物質と化学反応式」、「酸と塩基の反応」、「酸化還元反応」の各分野について観察や実験を行い、基本的な概念や原理・法則を学び、自然に対して化学的に探究する能力や態度を養う。 『化学[上]』は『化学基礎』の科目の内容をさらに発展させた内容で、基本的な概念を重視し、化学分野の思考力を一層伸ばす科目である。 定期考査、小テスト、実験レポート、提出物等をもとに評価する。			
教科からのアドバイス	理系大学進学希望者は選択すること。さらに3年次に『化学[下]』と『化学特講』を選択すること。			

2年次	化学基礎	2単位	普通	選択ゾーン ④
履修条件	特になし			
内 容	「物質の構成」、「物質の構成粒子」、「粒子の結合」、「物質と化学反応式」、「酸と塩基の反応」、「酸化還元反応」の各分野について観察や実験を行い、基本的な概念や原理・法則を学び、自然に対して化学的に探究する能力や態度を養う。 定期考査、小テスト、実験レポート、提出物等をもとに評価する。			
教科からのアドバイス	受験で『化学基礎』が必要な者は選択すること。 受験で「化学」が必要な人は、『化学基礎+化学[上]』を選択すること。			

2年次	地学基礎	2単位	普通	選択ゾーン ④
履修条件	特になし			
内 容	日常生活や社会との関連を図りながら、地球や地球を取り巻く環境への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、探究する能力と態度を育てるとともに、地学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を養う科目である。 宇宙の姿や太陽系の様子から、地球上での気象現象や地震・火山活動など、様々な自然現象について学ぶ。 定期考査、小テスト、実験レポート、提出物等をもとに評価する。			
教科からのアドバイス	受験で「地学」が必要な人は、さらに3年次に『地学』を選択すること。			

2年次	物理[上]	2単位	普通	選択ゾーン ④
履修条件	『物理基礎』を履修済みであること。			
内 容	「運動とエネルギー」、「熱」、「波」、「電気」、「物理学と社会」の各分野について観察や実験を行い、基本的な概念や原理・法則を学び、自然に対して物理的に探究する能力や態度を養う。 定期考査、小テスト、実験レポート、提出物等をもとに評価する。			
教科からのアドバイス	受験で「物理」が必要な人は、2年次に『物理[上]』を選択し、さらに3年次に『物理[下]』と『物理特講』を選択すること。			

2年次	生物[上]	2単位	普通	選択ゾーン ④
履修条件	『生物基礎』を履修済みであること。			
内 容	『生物』では、「生命現象と物質」、「生殖と発生」、「生物の環境応答」、「生態と環境」「生物の進化と系統」である。この内、前半の「生命現象と物質」、「生殖と発生」を中心に学習する。 定期考査、確認テスト、実験レポート、提出物等をもとに評価する。			
教科からのアドバイス	受験で「生物」が必要な人は、2年次に『生物[上]』を選択し、さらに3年次に『生物[下]』と『生物特講』を選択すること。			

3年次	物理[下]	2単位	普通	選択ゾーン C1, C2
履修条件	『物理[上]』を選択者は必修。			
内 容	「力と運動」、「熱と気体」、「波」、「電気と磁気」、「原子」の各分野について、『物理基礎』の内容をふまえて、より深め、発展的に学ぶ。後半には問題演習を多く行い、大学入試に対応できる力を養う。 定期考査、小テスト、実験レポート、提出物等で評価する。			
教科からのアドバイス	受験で「物理」が必要な人は、『物理特講』も選択すること。			

3年次	物理	4単位	普通	選択ゾーン D
履修条件	『物理基礎』を履修済みであること。 『物理[上]』、『物理[下]』を履修・選択していないこと。			
内 容	「運動とエネルギー」、「熱」、「波」、「電気」、「物理学と社会」の各分野について観察や実験を行い、基本的な概念や原理・法則を学び、自然に対して物理的に探究する能力や態度を養う。 定期考査、小テスト、実験レポート、提出物等をもとに評価する。			
教科からのアドバイス				

3年次	化学[下]	2単位	普通	選択ゾーン C3,C4
履修条件	『化学[上]』選択者は必修			
内 容	「化学」の科目の内容をさらに発展させた内容で、基本的な概念を重視し、化学分野の思考力を一層伸ばす科目である。 『化学基礎』との関連が深く、「気体の法則」、「反応の速さ」や「化学平衡」の考え方、有機化合物、高分子化合物についても一部学ぶ。 定期考査、小テスト、実験レポート、提出物等をもとに評価する。			
教科からのアドバイス	受験で「化学」が必要な人は、『化学特講』も選択すること。			

3年次	化学	4単位	普通	選択ゾーン D
履修条件	『化学基礎』を履修していること。 『化学[上]』、『化学[下]』を履修・選択していないこと。			
内 容	『化学基礎』の科目の内容をさらに発展させた内容で、基本的な概念を重視し、化学分野の思考力を一層伸ばす科目である。 『化学基礎』との関連が深く、「気体の法則」、「反応の速さ」や「化学平衡」の考え方、有機化合物、高分子化合物についても一部学ぶ。 定期考査、小テスト、実験レポート、提出物等をもとに評価する。			
教科からの アドバイス				

3年次	生物[下]	2単位	普通	選択ゾーン C1,C2
履修条件	『生物[上]』を選択者は必修			
内 容	『生物』では、「生命現象と物質」、「生殖と発生」、「生物の環境応答」、「生態と環境」「生物の進化と系統」である。この内、「生物の環境応答」、「生態と環境」、「生物の進化と系統」を中心に学習する。 定期考査、確認テスト、実験レポート、提出物等をもとに評価する。			
教科からの アドバイス	受験で「生物」が必要な人は、『生物特講』も選択すること。			

3年次	生物	4単位	普通	選択ゾーン D
履修条件	『生物基礎』を履修済みであること。 『生物[上]』、『生物[下]』を履修していないこと。			
内 容	『生物』では、「生命現象と物質」、「生殖と発生」、「生物の環境応答」、「生態と環境」「生物の進化と系統」である。この内、「生態と環境」、「生物の進化と系統」を除く、前半の単元を中心に学習する。 定期考査、確認テスト、実験レポート、提出物等をもとに評価する。			
教科からの アドバイス				

3年次	地学	4単位	普通	選択ゾーン D
履修条件	『地学基礎』を履修済みであること。			
内 容	『地学基礎』で学んだ学習内容のさらなる深化と拡大を図るとともに、多くの実習や観察に取り組み、科学的な思考力や判断力を養うとともに、レポートの作成をとおして、正確な情報発信に取り組める表現力も養うことを目的としている。 定期考査、小テスト、提出物等で評価する。			
教科からの アドバイス	受験で「地学」が必要な人は、選択すること。 ※ 受験予定大学の入試科目を必ず確認すること。			

3年次	物理特講	2単位	普通 共修	選択ゾーン D2
履修条件	3年次に『物理[下]』を選択していること。			
内 容	『物理』の授業を基礎として、物理全般の標準的な問題及び発展的な問題が解けるようになることを目指す。大学入試問題演習を通じて、受験に対応できる力をつけることを目標とする。また、高度な実験・演示などを通じ、より深く物理を探究する。 定期考査、小テスト、提出物等で評価する。			
教科からの アドバイス	「物理」を受験科目にする人及びより深く物理を探究したい人は、選択すること。			

3年次	化学特講	2単位	普通 共修	選択ゾーン D1
履修条件	3年次に『化学[下]』を選択していること。			
内 容	『化学』の授業を基礎として、標準的な問題が解けるようになることを目指す。また、大学入試問題で、実践的な問題演習も行い、受験に対応できる力をつけることを目標とする。 定期考査、小テスト、提出物等で評価する。			
教科からの アドバイス	「化学」を受験科目にする人及びより深く化学を探究したい人は、選択すること。			

3年次	生物特講	2単位	普通 共修	選択ゾーン D2
履修条件	3年次に『生物[下]』を選択していること。			
内 容	『生物』では、「生命現象と物質」、「生殖と発生」、「生物の環境応答」、「生態と環境」、「生物の進化と系統」である。この内、「生態と環境」、「生物の進化と系統」を中心に学習するとともに、高度な演習を通じ、より深く生物を探究する。 定期考査、確認テスト、提出物等をもとに評価する。			
教科からの アドバイス	「生物」を受験科目にする人及びより深く生物を探究したい人は、選択すること。			

3年次	地学特講	2単位	普通 共修	選択ゾーン D1
履修条件	2年次で『地学基礎』を履修済みであること。			
内 容	『地学基礎』の授業を基礎として、地学全般の標準的な問題及び発展的な問題が解けるようになることを目指す。大学入試問題演習を通じて、受験に対応できる力をつけることを目標とする。また、高度な実験・演示などを通じ、より深く地学を探究する。 定期考査、小テスト、提出物等で評価する。			
教科からの アドバイス	より深く地学基礎を探究したい人は、選択すること。			

3年次	生物化学基礎特講	2単位	普通 ----- 共修	選択ゾーン C3, C4
履修条件	『生物基礎』、『化学基礎』を履修済みであること。			
内 容	『生物基礎』、『化学基礎』の授業をもとに、標準的な入試問題(大学入学共通テスト等)の演習を行う。単に入試問題が解けるようになることが目的ではなく、その問題をとおして、生物現象や化学の深い意味を読みとり、その問題の意図を把握し、その結果として必然的に解答につながるような力を養う。 定期考査、小テスト、提出物等で評価する。			
教科からの アドバイス	医療看護系希望者は選択することが望ましい。			

3年次	生物地学基礎特講	2単位	普通 ----- 共修	選択ゾーン C3, C4
履修条件	『生物基礎』、『地学基礎』を履修済みであること。			
内 容	『生物基礎』、『地学基礎』の授業をもとに、生物分野、地学分野を合わせた、総合的な理科力を育成する。さらに、生物基礎や地学基礎の標準的な入試問題(大学入学共通テスト等)を解答できる力を身につける。 定期考査、小テスト、提出物等で評価する。			
教科からの アドバイス	文系型で大学入学共通テストを受験する生徒は、選択すると良い。			

3年次	地学化学基礎特講	2単位	普通 ----- 共修	選択ゾーン C3, C4
履修条件	『地学基礎』、『化学基礎』を履修済みであること。			
内 容	『地学基礎』、『化学基礎』の授業をもとに、地学分野、化学分野を合わせた、総合的な理科力を育成する。さらに、地学基礎や化学基礎の標準的な入試問題(大学入学共通テスト等)を解答できる力を身につける。 定期考査、小テスト、提出物等で評価する。			
教科からの アドバイス	文系型で大学入学共通テストを受験する生徒は、選択すると良い。			

3年次	科学実験	2単位	普通 ----- 共修	選択ゾーン C5
履修条件	特になし			
内 容	日常生活において、ありふれていたり、逆に地域特有であったりして、つい見過しがちなものなど、普段の教科内容では扱えないような、物質、生命体、自然現象などについて、実験や実習により、理解・発展させ、科学的な考察力を身につける科目である。 実験レポート、提出物等で評価する。			
教科からの アドバイス	理科及び実験好きな者は、選択すると良い。			

3年次	地球環境	2単位	普通	選択ゾーン D2
履修条件	特になし			
内 容	<p>20世紀は、人類が科学の発展と利便さの追求のみを考えて活動した結果、さまざまなゆがみが生じた時代であった。そのゆがみのうち、地球の存亡にかかわる環境問題について、科学的に理解するための科目である。環境問題はそれぞれの問題が独自に存在するものではなく、複雑にからみ合っている。それらを学ぶことで、宇宙船地球号のリーダーである私たちが、他の生物と共に生きる方法を考えていく科目である。</p> <p>実習レポート、提出物等で評価する。</p>			
教科からのアドバイス	環境問題に興味のある人は、選択すると良い。			



## カ 保健体育科

2年次	スポーツⅡ[α]	2単位	普通	選択ゾーン ④
履修条件	1年次の『体育』を履修済みであること。			
内 容	必修『体育』で実施する種目の内容をさらに深め、球技を中心に活動する。レクリエーション種目等も加え、スポーツをより楽しく実践する姿勢を培う。具体的に実施する種目は、選択者の人数、施設、用具を考慮し年度当初に決定する。 関心・意欲・態度、思考・判断、運動の技能、知識・理解の4観点を中心に総合的に評価する。			
教科からのアドバイス	スポーツに対する興味・関心が強く、より積極的に活動したい人は、選択すると良い。			

3年次	スポーツⅡ[β]	2単位	普通 共修	選択ゾーン C3, C4
履修条件	1・2年次の『体育』を履修済みであること。			
内 容	身近な地域スポーツ施設（太陽が丘・ゴルフ・ボウリング・プール）での活動や、ヨガをはじめ、エアロビクスダンス・ヒップホップダンス・フォークダンスなども実施し、さまざまなスポーツ活動をとおして、継続的な生涯スポーツにつながる姿勢を培う。 関心・意欲・態度、思考・判断の観点を中心に毎時間評価し、さまざまなスポーツの歴史などの理解を深め、総合的に評価する。			
教科からのアドバイス	スポーツに対する興味・関心が強く、より積極的に活動したい人は、選択すると良い。なお、校外学習種目の実費が必要となる。			

3年次	スポーツ福祉実践	2単位	普通	選択ゾーン D1
履修条件	特になし			
内 容	スポーツを通して、障害者をはじめ児童や高齢者の人々を理解する。例えば、障害者のスポーツ実践では、車いすハンドボールやバスケットボール、盲人卓球などを体験するとともに 障害者スポーツの歴史やその意義、介助法なども学習する。 実技、レポート、課題研究発表で評価する。			
教科からのアドバイス	障害者をはじめ、児童や高齢者の特性を理解して、スポーツに携わる興味や関心のある人は、選択すると良い。 障害者をはじめ、児童や高齢者の人々に対する理解を深めることが主たる内容なので、スポーツが得意、不得意かは全く関係ない。			

## キ 芸術科

2年次	音楽Ⅱ	2単位	普通	選択ゾーン ④
履修条件	『音楽Ⅰ』を履修済みであること。			
内 容	<p>音楽の諸活動をとおして、音楽に対する感性を磨き、文化的な表現力や鑑賞力を高める科目である。</p> <p>歌唱：ソルフェージュ、ソロ歌唱、2～3部合唱、アカペラなど            器楽：様々な楽器を使った講座合奏やグループアンサンブルなど            創作・理論：音楽の基礎知識、作曲ソフトを用いた作詞・作曲（コードネームや音階をもとにしたメロディー創作、美術ⅡアニメーションのBGM創作）            鑑賞：さまざまな表現の音楽を聴き、表現の違いを感じとる。            実技テスト、授業に取り組む姿勢などを総合的に評価する。</p>			
教科からのアドバイス	音楽（教育）、保育、幼児教育、初等教育系などへの進学希望者は、選択することが望ましい。また、生涯にわたって音楽に親しみたいと考える人も、選択すると良い。			

2年次	美術Ⅱ	2単位	普通	選択ゾーン ④
履修条件	『美術Ⅰ』を履修済みであること。			
内 容	<p>感性を高め、個性を生かした創造豊かな表現と観賞の能力を伸ばし、美術文化についての理解を深める科目である。さらに美的体験を豊かにし、美術を愛好する心情を育てる。</p> <p>絵画・彫刻表現：絵画・彫刻表現：架空の生物の制作、ボックスアートなど            デザイン表現：グリーティングカードなど            映像・メディア表現：アニメーションなど            鑑賞：課題ごとの観賞会、鑑賞とレポート、作品展鑑賞など            作品、レポートなどの提出物、授業に取り組む姿勢などを総合的に評価する。</p>			
教科からのアドバイス	美術・デザイン系、保育・幼児教育系などへの進学希望者は、選択することが望ましい。また、生涯にわたって美術に親しみたいと考える人も、選択すると良い。			

2年次	書道Ⅱ	2単位	普通	選択ゾーン ④
履修条件	『書道Ⅰ』を履修済みであること。			
内 容	<p>『書道Ⅰ』の内容をさらに発展させ、創作内容、学習分野を広げる。</p> <p>『書道Ⅰ』で培った書写能力や表現力、鑑賞力をさらに伸ばさせ、それぞれの分野での作品創作に力点を置く。</p> <p>漢字、仮名、漢字仮名交じりの書、篆刻、硬筆の学習をし、文化祭、芸術展を発表の場とする。</p> <p>作品、レポートなどの提出物、作品帳の整理と完成度、授業に取り組む姿勢などを総合的に評価する。</p>			
教科からのアドバイス	小・中学校の国語の教員を目指す人は、選択することが望ましい。また、書に親しみ、伝統芸術の教養を身につけたい人も、選択すると良い。			

3年次	音楽Ⅲ	3単位	普通	選択ゾーン B1
履修条件	『音楽Ⅰ』、『音楽Ⅱ』を履修済みであること。			
内 容	『音楽Ⅰ』、『音楽Ⅱ』の内容をさらに発展させた科目であり、より高度な表現を必要とする課題に取り組む。 歌唱：ソルフェージュ、ソロ歌唱、ボイスアンサンブル、アカペラなど 器楽：さまざまな楽器を組み合わせた講座合奏 創作・理論：作曲ソフトによる作詞、作曲などオリジナル作品の創作 鑑賞：さまざまな表現の音楽を聴き、音楽的視野を広げる。 実技テスト、授業に取り組む姿勢などを総合的に評価する。			
教科からの アドバイス	音楽（教育）、保育、幼児教育、初等教育系などへの進学希望者は、選択することが望ましい。また、生涯にわたって音楽に親しみたいと考える人も、選択すると良い。			

3年次	美術Ⅲ	3単位	普通	選択ゾーン B1
履修条件	『美術Ⅰ』、『美術Ⅱ』を履修済みであること。			
内 容	『美術Ⅰ』、『美術Ⅱ』を踏まえ、さらに美的体験を豊かにし、生涯にわたって芸術文化を尊重する態度を育てる科目である。より一層に感性と美意識を磨き、個性豊かな美術の能力を高める。 絵画・彫刻表現：共同制作に取り組み、文化祭で発表する。 卒業制作：3年間の集大成として大作に臨む。（絵画・彫刻表現、デザイン表現） 鑑賞：課題ごとの合評会、作品展鑑賞など 作品、レポートなどの提出物、授業に取り組む姿勢などを総合的に評価する。			
教科からの アドバイス	美術・デザイン系、保育・幼児教育系などへの進学希望者は、選択することが望ましい。また、生涯にわたって美術に親しみたいと考える人も、選択すると良い。			

3年次	書道Ⅲ	3単位	普通	選択ゾーン B1
履修条件	『書道Ⅰ』、『書道Ⅱ』を履修済みであること。			
内 容	『書道Ⅰ』、『書道Ⅱ』の内容をさらに発展させた科目である。 様々な題材を取り入れ、より高次の芸術活動を目指す。 古典の臨書を基礎に、創作作品を作り、文化祭、芸術展を発表の場とする。 作品、レポートなどの提出物、作品帳の整理と完成度、授業に取り組む姿勢などを総合的に評価する。			
教科からの アドバイス	小・中学校の国語の教員を目指す人は、選択することが望ましい。また、書に親しみ、より高度な創作を目指す人も選択すると良い。			

3年次	工芸 I	2 単位	普通	選択ゾーン D2
履修条件	特になし			
内 容	<p>身近な生活と工芸のかかわりを、デザインと制作を通して学ぶ科目である。感性を高め、工芸を愛好する心情と生活を心豊かにするための工夫や態度を育てる。</p> <p>デザイン基礎：モチーフを観察して平面表現する。</p> <p>表現：木、紙、布、陶、藤などの材料を使用して作品をデザインし、制作する。</p> <p>鑑賞：課題ごとの合評会、作品展鑑賞など</p> <p>作品、レポートなどの提出物、授業に取り組む姿勢などを総合的に評価する。</p>			
教科からの アドバイス	美術・デザイン系への進学希望者は、選択することが望ましい。また、生活に密着した「工芸（クラフト）」に興味・関心がある人も、選択すると良い。			

3年次	アートミックス	2 単位	普通 共修	選択ゾーン C1 ,C2
履修条件	特になし			
内 容	<p>芸術とその他の教科と連携させた課題に取り組む、単位制ならではの科目である。ものごとの一つ一つを深く、他のものと関連させながら捉える体系的な視点を身につけることを目指す。</p> <p>芸術を多様な視点からとらえ、多岐にわたって学習をする。</p> <p>作品・発表やレポートなどの成果や授業に取り組む姿勢など総合的に判断し、評価する。</p>			
教科からの アドバイス	知的好奇心が旺盛で、柔軟な思考を伸ばしたいと考えている人は、選択することが望ましい。			

3年次	実用書道	2 単位	普通 共修	選択ゾーン C3,C4
履修条件	特になし			
内 容	<p>文字を美しく、正確に書くことを基本に、実生活の中で必要とされる書に関する様々なことを学習する。また生活に活かすことのできる作品の制作を行う。</p> <p>年賀状、暑中見舞い、履歴書や慶弔の書式などを毛筆、硬筆で習う。</p> <p>作品、レポートなどの提出物、作品帳の整理と完成度、授業に取り組む姿勢などを総合的に評価する。</p>			
教科からの アドバイス	実生活に有用な書に関する技術と知識が学べる。授業に取り組む姿勢を重視する。			

3年次	音楽総合	2単位	普通 ----- 共修	選択ゾーン C3,C4
履修条件	特になし			
内 容	<p>音楽の諸活動を通して、音楽に対する感性を磨き、文化的な表現力を育てる科目である。各自の音楽経験により、到達目標を定め、課題に取り組む。</p> <p>歌唱：ソルフェージュ、ソロ歌唱、2～3部合唱、アカペラなど</p> <p>器楽：独奏やさまざまな楽器を組み合わせた合奏など</p> <p>創作・理論：作曲ソフトによる作詞、作曲、などオリジナル作品の創作</p> <p>鑑賞：さまざまな表現の音楽を聴き、表現の違いを感じとり、音楽的視野を広げる。</p> <p>実技テスト、授業に取り組む姿勢などを総合的に評価する。</p>			
教科からの アドバイス	音楽（教育）、保育、幼児教育、初等教育系などへの進学希望者は、選択することが望ましい。また、生涯にわたって音楽に親しみたいと考える人も選択すると良い。			

3年次	描写	2単位	普通 ----- 共修	選択ゾーン C3,C4
履修条件	特になし			
内 容	<p>美術系の実技入試課題に対応する科目である。実技内容は、描写（鉛筆デッサン、人物クロッキー）、着彩画、色彩構成・イメージ画、立体構成などである。</p> <p>表現：前半は共通基礎課題、後半は個々の進路希望に合わせた実技内容（実技入試課題やアートを楽しむ課題など）に取り組む。</p> <p>鑑賞：課題ごとの講評、作品展鑑賞、校外美術鑑賞など</p> <p>作品、レポートなどの提出物、授業に取り組む姿勢などを総合的に評価する。</p>			
教科からの アドバイス	美術・デザイン・ファッション系の大学・短大・専門学校などへの進学希望者は、選択することが望ましい。また、保育・幼児教育系や理容・美容系、調理系に進学希望者で、美術的な要素を身につけたい人も選択すると良い。			

ク 外国語科

2年次	英語表現Ⅱ	3単位	普通	選択ゾーン ③
履修条件	『英語表現Ⅰ』を履修済みであること。2年次の『英語表現Ⅱ』（2単位）と併せての選択はできない。			
内 容	『コミュニケーション英語Ⅱ』と併せて、文法事項や構文の定着を図りつつ、英作文を書く力をつけることを目標とした授業を行う。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・比較的短い日本語を英訳する。</li> <li>・『英語表現Ⅰ』で学んだ文法事項や構文を復習し、発展的な演習を行う。</li> <li>・自由英作文の演習を継続して行う。</li> <li>・入試に対応できる実践問題演習を数多く取り入れる。</li> <li>・定期考査、提出物、小テスト、発表などで評価する。</li> </ul>			
教科からのアドバイス	文系での進学希望者は、選択すること。			

2年次	英語表現Ⅱ	2単位	普通	選択ゾーン ④
履修条件	『英語表現Ⅰ』を履修済みであること。2年次の『英語表現Ⅱ』（3単位）と併せての選択はできない。			
内 容	『コミュニケーション英語Ⅱ』と併せて、文法事項や構文の定着を図りつつ、英作文を書く力をつけることを目標とした授業を行う。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・比較的短い日本語を英訳する。</li> <li>・『英語表現Ⅰ』で学んだ文法事項や構文を復習し、発展的な演習を行う。</li> <li>・自由英作文の演習を継続して行う。</li> <li>・入試に対応できる実践問題演習を取り入れる。</li> <li>・定期考査、提出物、小テスト、発表などで評価する。</li> </ul>			
教科からのアドバイス	理系での進学希望者は、選択すること。			

3年次	英語表現Ⅱ	2単位	普通 共修	選択ゾーン B2, B3, C3, C4
履修条件	1年次に『英語表現Ⅰ』及び2年次に『英語表現Ⅱ』を履修済みであること。			
内 容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年次、2年次に学んだ英語の知識を基盤としながら、さらに高度な表現力を身につける。</li> <li>・英語的な発想で英文を作る練習をすることで国公立大学二次試験に対応できる力を身につける。</li> <li>・定期考査、提出物、小テスト、発表などで評価する。</li> </ul>			
教科からのアドバイス	国公立大学の二次試験等で、難易度の高い英作文が課される場合は、選択すること。なお、『英語特講』との選択で迷う場合は、事前に相談すること。			

3年次	英語特講	2単位	普通 共修	選択ゾーン B2,B3 C1,C2,C3,C4,C5
履修条件	『コミュニケーション英語Ⅰ』を履修済みであること。			
内 容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年次、2年次に学んだ英語の知識を基盤としながら、さらに、高度な読解力と表現力を身につける。</li> <li>・高度な内容・レベルの英文を精読したり、読解問題の演習を通して、大学入試にも対応できる力を身につける。</li> <li>・定期考査、提出物、小テスト、発表などで評価する。</li> </ul>			
教科からの アドバイス	<p>入試で英語が必要な人は、『コミュニケーション英語Ⅲ』と併せて選択することが望ましい。</p> <p>『コミュニケーション英語Ⅱ』を履修済みであることが望ましい。</p> <p>なお、『英語表現Ⅱ』との選択で迷う場合は、事前に相談すること。</p> <p>『英語特講』を選択する普通科の生徒は、『実践英語』は必要としない。</p>			

3年次	実践英語	2単位	普通 共修	選択ゾーン C3, C4
履修条件	『コミュニケーション英語Ⅰ』又は『総合英語』を履修済みであること。			
内 容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年次、2年次に学んだ英語の知識を基盤としながら、さらに、高度な読解力を身につける。</li> <li>・高度な内容・レベルの英文を精読したり、読解問題の演習を通して、大学入試にも対応できる力を身につける。</li> <li>・定期考査、提出物、小テスト、発表などで評価する。</li> </ul>			
教科からの アドバイス	普通科は、『英語表現Ⅱ』または『英語特講』を履修し、教養科学科は『実践英語』を選択することが望ましい。			

## ケ 家庭科

3年次	子どもの発達と保育	2単位	普通 ----- 共修	選択ゾーン C1, C2
履修条件	『家庭基礎』を履修済みであること。			
内 容	<p>子どもの発達と保育に関する知識と技術の習得を目指し、子どもの健全な成長を図る能力と実践的な態度を育成することを目標としている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの発達と子どもの生活</li> <li>・家庭保育と集団保育</li> <li>・保育所体験実習（3回）</li> <li>・乳幼児の救急救命講習（AED）</li> <li>・保育者の役割</li> <li>・児童文化財の製作（創作絵本）</li> <li>・製菓・調理実習（5回）</li> </ul> <p>定期考査、レポート、作品等をもとに評価する。要実習費</p>			
教科からの アドバイス	<p>教育・保育・家政・生活科学系の学部・学科・職業を進路先に考えている生徒は、選択すると良い。</p> <p>AO・推薦入試や国公立2次等での面接試験や小論文試験対策にもなる。</p>			

3年次	生活と福祉	2単位	普通 ----- 共修	選択ゾーン C3, C4
履修条件	『家庭基礎』を履修済みであること。			
内 容	<p>乳幼児の発達から高齢者介護まで、家族の健康と福祉に関する知識と基礎的な技術を学ぶ。健康管理や基本的な介護ができる能力と態度を身につけることを目標としている。視聴覚教材や新聞記事を読み、命の尊さや人権の尊厳を考察する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・病気の予防と看護</li> <li>・高齢者介護の基本</li> <li>・介護食調理実習（8回）</li> <li>・家庭看護の基本技術</li> <li>・高齢者介護の基本技術</li> </ul> <p>定期考査、レポート、実技等をもとに評価する。要実習費</p>			
教科からの アドバイス	<p>医療看護系・教育保育系・栄養系・福祉系・家政・生活科学系の学部・学科・職業を進路先に考えている生徒は、選択すると良い。AO・推薦入試や国公立2次等での面接試験や小論文対策にもなる。</p>			

3年次	家庭研究	3単位	普通 ----- 共修	選択ゾーン B1
履修条件	『家庭基礎』を履修済みであること。			
内 容	<p>家庭基礎で学んだ知識や技術を更に充実、発展させ、家庭生活を健康で合理的に営む知識や実践的な態度を育てることを目標としている。主に実習を中心に学習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・被服実習（リバーシブルバッグ・テディベア製作など）</li> <li>・調理実習（製菓・製パン・フランス料理講習・日本料理講習を含む。）</li> <li>・住居関連実習（紙バンドのかご・リボントレイ製作）</li> <li>・家庭経済等の演習</li> <li>・アロマセラピー実習</li> <li>・伝統文化に関する実習（華道）</li> </ul> <p>定期考査、レポート、作品等をもとに評価する。実習内容は年度により変更 要実習費</p>			
教科からの アドバイス	<p>家庭基礎で学んだ知識をより実践的に深く学ぶ科目で、自主的に取り組む姿勢が求められる。教育系・保育系・栄養系・福祉系・家政・生活科学系の学部・学科・職業を進路先に考えている生徒は、選択すると良い。AO・推薦入試や国公立2次等での面接試験や小論文対策にもなる。</p>			



## コ 情報科

3年次	情報の科学	2単位	普通	選択ゾーン D1
履修条件	特になし			
内 容	情報のデジタル化や情報通信ネットワークの特性を理解し、表現やコミュニケーションにおいてコンピュータなどを効果的に活用する能力を養うとともに、情報化の進展が社会に及ぼす影響を理解し、情報社会に参加する上での望ましい態度を身につける。			
教科からの アドバイス	主な実習項目として、ワープロソフトの活用、表計算ソフトの活用、フォトタッチソフトの活用、プレゼンテーションソフトの活用、ホームページ作成ソフトの活用などがある。各実習にあたっては、発展的な操作の習得に重点を置く。人数に制限がある。			

3年次	実用文書処理	2単位	普通	選択ゾーン B2, B3
履修条件	特になし			
内 容	コンピュータを用いた文書の作成や表計算処理の技術の習得に取り組む。ワープロソフト（WORD）による文書作成を行い、入力速度の向上や多様な形式の文書作成が容易にできるようにする。また、希望者は文書処理検定試験に挑戦し、3級から1級の資格取得を目指す。さらに、表計算ソフト（EXCEL）を使い、WORD文書の付加価値を高める技術の学習を行う。			
教科からの アドバイス	実習科目であるので毎時間集中して取り組んで、与えられた最低限の課題をこなすだけでなく、自ら先へ先へと実習していく姿勢が大切である。身につけた技量が、将来にわたって役立つと思われる。 文書作成や表計算など、将来に役立つ身近な技術の習得を考えている人向きである。			

3年次	メディア概論	2単位	普通	選択ゾーン C5
履修条件	特になし			
内 容	マルチメディアを「コミュニケーションデザイン」、「社会」、「技術」の各観点から理解し、その全体像を把握することを目的とします。また、情報システム分野の基礎知識を確実にすることを目指し、インターネット、Webを支える技術と仕組み、Webマーケティングなどについても学習します。			
教科からの アドバイス	実習科目であるので毎時間集中して取り組んで、与えられた課題をこなすだけでなく、自ら先へ先へと実習していく姿勢が大切である。身につけた技量が将来にわたって役立つと思われる。			

サ 福祉科

2・3年次	社会福祉基礎	2単位	普通 ----- 共修	選択ゾーン ④,C1,C2,C5
履修条件	特になし。「福祉」に興味のある者であれば誰でも履修することができる。			
内 容	<p>「社会福祉」のみならず、「福祉」全般に関心のある者を対象に、科目名のとおり「基礎」を学ぶことを目的とする。講義を基本として、適宜、実技や福祉現場の方の講話なども取り入れる予定である。具体的項目は主に次のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「社会福祉の制度・現状」</li> <li>・「高齢者福祉」…介護施設との交流</li> <li>・「障害者福祉」…手話・点字学習、共同作業所との交流</li> <li>・「子ども家庭福祉」などの講義、テーマを設定した視聴覚教材を視聴</li> <li>・車椅子、足湯体験等の実技</li> <li>・定期考査、レポート、実技などにより評価を行う。</li> </ul>			
教科からの アドバイス	<p>「福祉の心」を育むためにその基本となる基礎知識を習得する気持ちで履修してほしい。他の福祉関連科目の基本となる科目である。また、福祉系進学者のみならず医療看護、保育系の進路を考えている者にも参考になる科目である。</p>			

# 進路別科目選択例

ここでは、みなさんの希望する進路ごとに、受験科目などを基にして科目の選択例を示します。ただし、あくまで『例』ですので、このとおりにしなければならないというものではありません。各自の希望する進路についてよく調べ、自分に合った科目選択をしましょう。